

令和4年度から「幼保小架け橋プログラム事業」(文部科学省)に取り組んでいます。5歳児から2年生までの接続カリキュラム及び5歳児から中学3年生までの10年間の学びの連続性を捉えた全体構想を現在作成しています。

白石市の取組紹介

Q1 接続期カリキュラムの活用にいつから取り組んでいますか？

白石市教育委員会では、平成24年から取り組んでいます。

令和5年度は、架け橋期のカリキュラムの他にモデル中学校区で小学校3年生から中学校3年生までの学びの連続性を捉えた全体構想を作成し、令和6年度から実践・検証する予定です。



Q2 誰がどのようにしてカリキュラムを作っているのですか？

令和4年度は架け橋プログラム運営会議を組織し、市内の保育園・幼稚園長と小学校の校長、実務担当として各園や小学校の代表者が委員となりカリキュラムの土台を作成しました。令和5年度はそれらを実践しながら振り返りを行いました。さらに、1つの中学校区をモデル地区として小学校3年から中学校3年までの学びの連続性を捉えた全体構想を作成しました。令和6年度は幼保小・中と実践につなげる予定です。

Q3 活用に当たって配慮していることはどんなことですか？

各学校・園に開発会議、運営会議の委員または、カリキュラム作成委員がいることから、内容が周知されるほか、理解研修や双方の体験研修、または実践振り返りの会などを行う中で互いが顔の見える関係づくりに配慮してきました。特に双方での体験研修後に行う振り返りの会では、互いの感想や疑問点などを出し合い、子供理解に役立ちました。その後の保育実践や、授業に大いに参考になるので、振り返りの意見交換は重要と考えております。

Q4 各園のみなさんからどのような声が寄せられていますか？

～幼保小の交流を通してどのような変容が見られていますか～



1年生が幼児と関わることで、主体的に自分の考えを持って行動する姿が見られた。幼児は児童の活動の様子や、話を聞いて、小学校に対する期待や意欲を膨らませている様子が見られた。(1年生担任教諭)



幼保施設からの指導方法から継続して小学校の先生につなげることで、子供も戸惑うことなく授業に入るのではないかと感じたのでいろいろな先生がそういった経験ができるようになるとよいと感じた。(小学校教諭)



小学校体験で卒園した子供が落ち着いて授業に参加して、先生の話の聞いたり自分の意見を伝える場面がたくさん見られた。時間を意識した声掛けや活動を、今後の保育の中で見通しを持って接していきたいと思う。(保育園保育士)

白石市架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児4月～8月

目指す子供の姿
 ○自分から進んで周囲の事物や他者と関わり様々な経験をする子供
 ○友達と共感しながら育ち合う子供
 ○様々な環境に関わる中から、豊かな感性が生まれ、いろいろな表現で伝えようとする子供

生活する力の育成 ■「生活をつなぐ」	○幼児期からの遊びや生活経験を基に、これまでの遊びや学びが小学校入学後の学習や生活に生かされるようになる。また、身辺処理も自立に向かってますます意欲的になる。
人と関わる力の育成 ■「人をつなぐ」	○多世代の人たちとの触れあいを通して、他者意識が芽生え、より良く関わろうとする意欲が出てくるようになる。また、小学校や児童、教諭の存在を身近に感じるようになる。
学ぶ力の育成 ■「学びをつなぐ」	○交流を通して小学校に対する全体像を五感で感じ、安心感を持つようになる。また、知りたいことや見たいことなど、多くのことに興味・関心を示し、自分で調べたり、周囲の大人に聞いたりするようになる。

月	4	5	6	7	8
期	5歳児 1期			5歳児 2期	
ねらい	・様々な遊びを意欲的に行う中で、自信をもって生活する。			・様々な遊びを通して友達と共通の目的をもち、協力して認め合い、達成することの喜びを味わう。	
育みたい力	生活をつなぐ	・基本的な生活習慣が身につく、自信をもち、遊びや活動等に意欲的に取り組もうとする ・遊びや活動の中で、最後まで自分の力でやり遂げ、満足感や達成感をもつ ・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生命の営みの不思議さや生命の尊さに気づく ・時間を意識して生活してみる。			
	人をつなぐ	・家族や身近な人に親しみ、信頼感をもって生活する ・自分の気持ちや考えを相手に伝え、相手の思っていることに気づく ・自分からあいさつをしたり、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝えたりする ・良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動しようとする			
	学びをつなぐ	・身近な環境に親しみ、自然とふれあう中で、様々な事象に興味や関心をもつ ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像したり表現したりする事を楽しむようになる。 ・人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話したりするようになる。 ・遊びの中で不思議に気づき、聞いたり、調べたり、試したりするようになる			
共通して取り組みたい活動	生活をつなぐ	○自分の身の回りのことは自分でする ・手洗い・うがいをしよう ・歯みがきをしよう ・排泄の仕方を覚えよう ・衣服の着脱をしよう ・服のたたみ方・入れ方を覚えよう ・ロッカーを整理しよう ・箸を正しく使ってみよう ・食事のマナーを覚えよう ・生活リズムを整えよう ○見通しをもって生活をする ・時計を見て時間を意識する ・交通ルールを知る			
	人をつなぐ	○名人さん・名物をさがそう ・散歩に行こう ・見つけたものを話し合おう ・地図を作ろう ・もっと探そう		○地域の人と行ったり来たり ・一緒に遊ぼう	
	学びをつなぐ	○小学校ってどんなところ ① ・絵や写真を見てみよう ・行ってみよう		○ハロー！ワーク（ジョブ） ・どんな仕事があるか話し合おう ・行ってみよう	
子どもの交流	環境構成	○人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話をしたりする ・必要な会話をしよる ・人の話をよくきく ・人前で話をする ・相槌したり話し合ったりする ・絵本、紙芝居、童話、素話を見たり聞いたりする ○種をまこう 育てよう ○生き物を見つけよう！ 捕まえよう！ 飼ってみよう！ ○採ってみよう！遊んでみよう！食べてみよう！ ○水に触れて遊ぼう			
	家庭との連携	○遊びを継続し、満足感や達成感が得られるように場所や道具などを十分に用意し、遊びの時間を保障する。 ○身近な物を分かりやすく整理整頓するスペースを作り、視覚的な掲示物を示す。 ★一緒に生活や遊びの場を考えたり作ったりし、その過程を通し、年長組になった実感がもてるようにする。		○交流の中で遊びの楽しさを工夫したり、お互いのよさを認め合ったりするために、振り返りの時間を設定する。 ○時計を見ながら行動できるよう視覚的な工夫を示し、大まかな見通しをもちながら活動できるようにする。 ★一人一人の気づきに共感し、お互いの思いやイメージを出し合いながら遊びを展開できるようにする。また、子ども同士の考えを受け止めて言葉にしたり視覚化したりしながら、考えを引き出し、次の活動へ繋げていく援助をする。	
	幼保小職員の交流等	◇小学校体験・情報交換会 ◇カリキュラム理解研修会 ■架け橋運営会議	◇架け橋プログラム理解研修（オンライン）	■架け橋運営会議	◇保育体験・情報交換会 ◇幼保小中合同研修会（実践参観・情報交換）
月	4	5	6	7	8

白石市架け橋期のカリキュラム全体計画 5歳児9月～3月

目指す子供の姿



- 自分から進んで周囲の事物や他者と関わり様々な経験をする子供
- 友達と共感しながら育ち合う子供
- 様々な環境に関わる中から、豊かな感性が育まれ、いろいろな表現で伝えようとする子供

月	9	10	11	12	1	2	3
期	5歳児 3期				5歳児 4期		
ねらい	・様々な活動や体験を通して、友達と協力したり創意工夫したりして遊ぶ中で、思いを伝えるための表現を楽しむ。				・集団生活に必要なルールや約束を守り、就学に期待をもちながら、見通しや目標をもって生活する。		
育みたい力	生活をつなぐ	・公共の場所、共同で利用する場所の使い方がわかり気持ちよく使おうとする ・園生活に必要な約束やルールの大切さに気づき、守ろうとする ・みんなで使うものに愛着をもち、大事にあつかう ・身の回りのことは、自信を持ってする ・時計を見て生活してみる					
	人をつなぐ	・友だちと協力して考えたり、工夫し合ったりして、力を合わせて活動し、達成感や満足感を味わう ・生活や遊びの中で起こるトラブルなどを通して、自分の気持ちや行動に折り合いを付けようと思うようになる。 ・いろいろな友達の存在に気づき、一緒に活動する楽しさをあじわう ・小・中学生、地域の人々、高齢者等、多世代の人々と親しみをもって接する					
	学びをつなぐ	・感じたことや思ったこと、想像したことなどを自分なりの表現を楽しみながら伝え合う(言語、絵画、身体等) ・身近な事物や事象に関わる中で、数や量、形などに関心をもつ ・遊びや生活の中で身近な文字に触れながら、興味や関心を広げる ・経験したことを話し合い、認知を深めさらに興味関心を広げる。					
共通して取り組みたい活動	生活をつなぐ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○自分の身の回りのことは自分でする ・手洗い・うがいをしよう ・歯みがきをしよう ・排泄の仕方を覚えよう ・衣服の着脱をしよう ・服のたたみ方・入れ方を覚えよう ・ロッカーを整理しよう ・箸を正しく使ってみよう ・食事のマナーを覚えよう ・生活リズムを整えよう *年間を通して計画的に取り組む </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ○時間を意識して生活する ・遊び、昼食、着替えなどの時間 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ○時間を見て生活する ・遊びの準備・片付け、昼食の片付けなど </div> </div>					
	人をつなぐ	○みんなで遊ぼう ・リレーごっこ ・わらべうた		○発表会の準備をしよう ・話し合おう ・必要な物を作ろう		○地域の方と遊ぼう ・昔遊びを楽しもう	
	学びをつなぐ	○人の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話をしたりする ・必要な会話をする ・人の話をよく聞く ・人前で話をする ・相談したり、話し合ったりする ・絵本、紙芝居、童話、素話などを見たり聞いたりする					
子どもの交流			秋のおもちゃやさんに招待してもらい一緒に遊ぶ	小学校見学(親子で) 5・5交流など			
環境構成	<input type="checkbox"/> 自然の変化や美しさ、不思議さを感じることが出来る体験、知的好奇心を満たす遊びや環境を工夫する。 <input type="checkbox"/> 小学生との交流を通して、就学への期待をふくらませることが出来るように小学校と連携した掲示物を工夫する。 ★行事など共通の目的に向けて試行錯誤しながら実現に向かう場面を大切に、子供が持ち味を発揮したりお互いのよさを認め合ったりしながら協力し合うことが出来るように見守りながら声掛けをする。				<input type="checkbox"/> 卒園に向けて、自分や仲間の成長に気付いたり、お世話になった方々への感謝の気持ちをもったり出来るような環境を工夫する。 ★園生活を振り返りながら、年長児としての役割をやり遂げた達成感や喜びを共有し、自信をもって行動できるようにしていく。 ★仲間と一緒に就学することを楽しみにして心身の準備を進めていけるような声掛けを行う。		
家庭との連携	・就学への不安や心配ごとについて傾聴し、安心して就学できるように必要な情報を提供して、相談できる機会をつくる。(個人面談等) ・卒園に向けての生活や就学までに身に付けておきたいことや準備しておくことを周知していく。				・卒園、入学までの関連情報を提供し、見通しをもって準備できるようにしていく。 ・就学に向けて、就寝・起床時刻、食事の時間を振り返り、規則正しい生活を送ることが出来るように協力をお願いする。		
幼保小職員の交流等		■架け橋運営会議	◇小学校体験・情報交換会 ◇カリキュラム実践振り返り研修	■架け橋運営会議	◇保育体験・情報交換会	■幼保小引継ぎ会	■架け橋運営会議
月	9	10	11	12	1	2	3

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を明記しながら、活動や遊びの中に環境構成の工夫を入れて誰もが理解しやすい指導案にしています。

生活をつなぐ

健康な心と体 自立心 思考力の芽生え



活動名	衣服の着脱をしよう	
ねらい	◎自分で着脱できるようになる。 ◎身だしなみを自分で整えようとする。	
環境構成	◆客観的に自分の姿が分かるように、鏡を準備する。 ◆着脱が分かりやすいように、絵表示などを掲示する。  ◆着替えの時間やスペースを確保する。	
幼児の活動	保育者の配慮・援助	
○自分で着脱をする。 ○身に着けた衣服は、整っているかを確認する。 ・下着が出ていないか。 ・裏返しや前後ろが逆になっていないか。 ・靴下は、きちんと履けているか。 ○登園したら、自分の持ち物の始末をする。 ・決められたロッカーに片付ける。 ・上着や帽子などをフックにかける。 ・必要に応じて着替えをする。	◇自分で着脱ができるように、脱ぎ方や着方について丁寧に知らせていく。  ◇客観的に自分の姿がわかるように、鏡に映して点検できるようにする。 ◇できた時は、大いに褒めたり、認めたりして自信をもてるようにする。 ◇持ち物の始末ができたかを確認する。できていないことがある時は、声掛けをしながら習慣づくようにしていく。 ◇衣服の汚れに気づいたり、気温などに合わせて調節したりできるように伝えていく。	

育みたい力

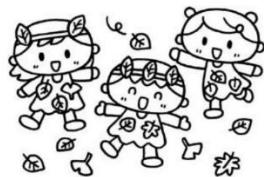
……の囲みは幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の項目です。

人をつなぐ

社会生活との関わり
言葉による伝え合い

活動名	ハロー！ワーク(ジョブ)	
ねらい	◎いろいろな仕事があることを知り、興味をもつ。 ◎将来の夢について、考えてみようとする。	
環境構成	◆いろいろな仕事があることを、絵本やパネルシアターなどを活用し、知らせる。 ◆いろいろな仕事に興味をもてるように、仕事に関連した写真やイラスト、実物などを準備したり、掲示したりする。 ◆身近な地域の職場見学をさせてもらったり、仕事内容を教えてもらったりすることで、仕事への興味をもてるようにする。 	
幼児の活動	○絵本やパネルシアターを見る。 ○どんな仕事があるのか話し合う。 ・どんな仕事があるか ・家族の仕事について ・大きくなったら何になりたいか など ○仕事クイズをする。 	保育者の配慮・援助 ◇絵本を読んだり、パネルシアターを見せたりするときには、幼児の表情を見ながら、ゆったりと話をする。 ◇絵本やパネルシアターの後に幼児の声に耳を傾け、気づきに共感する。 ◇幼児から出た職業を書き出すことでいろいろな仕事があることを共有していく。 ◇仕事内容についても興味をもてるように、どんなことをするのか考えられる時間を設けていく。 ◇家族がどんな仕事をしているのか聞いてみるよう話をし、保護者にも家族の仕事についても話をしてもらえるように投げかける。 ◇仕事クイズなどをしていろいろな仕事に興味・関心がもてるようにしていく。

活動名	秋の自然物で遊ぼう	
ねらい	◎自然物のいろいろな形 ◎自然物を使って、いろいろな	環境構成は、幼児の活動の展開にに応じて、随時変化（追加したり、取り除いたりする）していきます。その際、配慮や援助も変化していきます。
環境構成	◆園庭や園外保育で拾ってきた木の実、草の実、落ち葉、小枝などを分類して、箱などに入れておく。 ◆自然物を調べられるように、図鑑を置いておく。 ◆調べて分かった葉や実の名前を紙に書けるように紙やペンを用意しておく。 ◆カラーポリ袋、リボン、毛糸、両面テープ、ラピーテープ、セロハンテープ、ボンド、紙コップ、空き容器などの材料を用意する。 ◆幼児が遊びの中で、使いたい材料をその都度用意する。	
幼児の活動	保育者の配慮・援助	
○葉や木の実を集めて遊ぶ。 ・拾ってきたものを分類する。 ・図鑑を見て調べる。 ○葉や木の実を使って、いろいろな物を作る。 ・葉っぱの服を作る。 ・楽器を作る。 ・装飾を作る。など ○制作物をみんなで見合う。 ・着てみる。 ・鳴らしてみる。 ・飾ってみる。	◇形の面白さや色の違いなど、幼児の気づきや発見に耳を傾けたり、調べたりしたことをみんなで共有していく。 ◇作り方や並べ方、貼り方など、工夫している所を具体的に認め、意欲を高めていくようにする。 ◇悩んでいる幼児には、アイデアがわくように思いを引き出していく。 ◇制作物を見せ合うために、どうしたらよいか相談して具体的に決めていく。 ◇作品を見合う場面を作り、お互いの作品を認め合うようにする。 ◇見ている幼児に、どうだったか感想を聞いたり、これからどんなふうにして遊んでいくか考えたりする。	



各保育園や幼稚園で経験している共通の遊び等を保育園や幼稚園、小学校で共有することにより、小学校入学後に“みんなが知っている歌や遊び”を取り入れた活動がしやすくなり、児童の安心感や意欲的に取り組む姿につながっています。

保育園幼稚園共通のお遊び

	題名	教材選択の理由
歌	友だち讃歌	・いろいろな地域の保育園や幼稚園から入学する子どもたち。国や地域が違っても同じ仲間であだちの意識が芽生える曲。
	春がきたんだ	・春が来たうれしさと1年生になる期待が、リズムカルな曲調に表現されており、うきうきした気持ちで楽しく歌える。
	一年生マーチ	・新しいランドセルで晴れ晴れとした表情で登校するイメージがもてる曲である。元気にリズムカルに口ずさんでほしい。
手あそび	グー、チョキ、パー	・グーチョキパーを両手で示しながら、双方の手で何が作れるかそれぞれ見立てた形をイメージして楽しむ。
	お寺のおしょうさん	・友達と向き合っ、自分の手と友達の手を交互にテンポよく触り歌が進む。最後にはジャンケンで勝負が決まる。
	大きくなったらなんになろう	・様々な職業が出てくる楽しさや、一緒に歌詞を考え、作っていく面白さがある手あそびなのでみんなで楽しめる。
仲間づくり	ジャンケン列車	・ジャンケンが分かればだれでも一緒に遊べる。 ・勝てば先頭になったりチャンピオンになったりできる。 ・いろいろな友だちと繋がったり関わったりできる。
	おちゃをのみにきてください	・いろいろな友達と仲良くなりたと思った時に、簡単なルールで歌を歌いながら遊びを進められる。出会った友達と手をつなぎ次々かわっていくことで遊びを楽しむことができる。
	ひっこし鬼	・指示された言葉をよく聞いてその場所に逃げる、という簡単なルールの鬼あそびである。指示と違う場所に行ったり逃げるのが遅いと捕まってしまう。
お話	へったれ嫁さん	・各地に伝わる民話である。この話は白石に伝わる話。お嫁さんの悩みである「大きなおなら」が人々に役立ち、喜ばれるという互いの個性や良さに気づくお話である。
	もちもちの木	・主人公まめたの勇気と葛藤のお話。弱虫でねしょんべんのまめたが大好きなおじいさんを助けたい一心で頑張る姿に感動を感じる。
	はなさき山	・困っている人に寄り添う、優しくする。助けてあげる。自分がされてうれしいことを人にもやってあげよう、そんな気持ちにさせてくれる絵本。
体操	白石うーめん体操	・白石の名産品である白石温麺が題材になった体操である。歌詞の内容が動きを誘発させてくれる。口ずさみながら楽しく動ける体操。

※楽譜等は資料編参照

小学校で日常的に作成されている週案の様式で1～4週目まで作成しています。留意点には、幼保からのつながりを意識した授業のポイントが具体的に記載されています。

週案タイプ モデルプラン

第1週 令和5年4月10日(月)～4月14日(金)

【今週のねらい】

『はじめまして 学校』
1年生になったことを喜び、楽しく過ごすことができるようにする。

	10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)
行事等		入学式	幼保で歌った歌や手遊びで一日をスタート		
1			音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>
2			学活 元気な返事やあいさつ 学習用具の出し入れ プリントのもらい方	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう
3			学活 1年生になったよ トイレ・靴箱・ロッカーの使い方	国語 さあはじめよう 体を動かして言葉のリズムを楽しもう よろしくね 名前を書いてみよう 名前を教え合おう	道徳 ようこそ1年生 楽しみなことを話そう
4			生活 がっこうのことが知りたいな 学校の日を知ろう 先生と学校の中を歩いてみよう	図工 すきなもののいっばい すきなものの絵を描いて名札をつくろう	体育 校庭で遊ぼう ならびっこ 遊具遊び
5			生活 がっこうにいこう 登下校時のあいさつ・交通安全のルール	生活 がっこうにいこう 登下校時のあいさつ・交通安全のルール	道徳 あいさつ 登下校時のあいさつ・交通安全のルール
6			学活 周りの用意の仕方・コースごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コースごとに整列・下校指導	学活 周りの用意の仕方・コースごとに整列・下校指導
7			生活1.5 音楽0.5 学活2	生活1 音楽0.5 学活0.5 国語1.5 図工0.5	生活0.5 音楽0.5 学活0.5 国語0.5 道徳1 体育1

時数のカウントの目安として時間を区切っているが、授業時間の区切りで活動を区切らずに、子供たちの思いを拾い上げながらなめらかに活動をつないでいくようにする。

例えば・・・
(12日)先生と一緒に学校の中を歩きながら、その場所の使い方を覚えていく。
(13日)言葉のリズムを楽しんだ後で、「友達の名前を知りたいな」「名前を教え合おう」「名前を書いてみよう」「すきなものの絵も描いて教えたいな」と子供の思いをつないでいく。

金)	一緒に活動することに関心を遊んだりするようになる。
日(木)	21日(金)
生を迎える会	身体計測
音楽 をしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>	音楽 手遊びをしよう <small>うたっておどってなかよくならう</small>
国語 つながること やる時に大切な うたってみよう	体育 身体計測のことを知ろう 着替えよう
図工 まにこにこ らしいなと思 えを思い浮かべ てみよう	行事 身体計測
児童会 生を迎える会	体育 体育館で遊ぼう ならびっこ 仲間づくり遊び おにごっこ 着替え
生を迎える会に参 見兄さんやお姉 妹と楽しく遊んだり しよう	
国語 つながることば 生を迎える会で楽 しむことを話そう	国語 ひととつながることば 今週の楽しかったこと を話そう
学活 前・後片付けの仕方	道徳 あいさつ
5	音楽0.5 体育1.5
1	行事1
5	国語0.5 道徳0.5

【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】

- 生活科を中心に総合的・関連的な指導を行う。
 - 時間の枠で区切っているが、実際の活動では子供たちの思いを拾い上げながらなめらかに活動をつないでいくようにする。
 - 児童が園で経験したことを話し、伝え合いながら活動を広げていくようにする。
 - 1時間目の音楽では幼稚園や保育園で歌った歌や手遊びを取り入れ、安心して学校生活の一日のスタートが切れるようにする。
 - 複数学級がある学校では、1時間目の音楽を学年全体での活動として設定することで、友達づくりに対する不安を解消するとともに、担任だけでなくたくさんの先生が見守っていくことを伝え安心させる。(特別支援担当、7学年、支援員も1時間目の活動に加わるようにする)
 - 入学式の翌日は、子供たちは不安でいっぱいである。「学校は楽しい」「学校は安全」と思えるような活動を工夫する。
 - 教室に絵本のコーナーや自由遊びのスペースを作り、新しい環境の中でも落ち着いて過ごすことができるようにする。
- ➡ 1年生はゼロからのスタートではない。就学前に育ってきた姿を踏まえた指導を工夫していく。



【幼保からのつながりを意識した授業のポイント】

- 生活科を中心に総合的・関連的な指導を行う。
- 第2週も1時間目に音楽を設定している。幼稚園や保育園で歌った歌や手遊びを取り入れたり、一日の始まり方を同じにしたりすることで安心できるようにする。
- 1時間目の音楽の時間を使って、幼稚園や保育園で歌った「1年生マーチ」を歌い、1年生を迎える会で発表することもできる。
- 複数学級ある学校では、この週の1時間目も学年合同にすることで、現在の学校の友達に慣れるまで、幼稚園・保育園の友達と顔を合わせ、一緒に遊べるという安心感を持たせるようにする。



1年生の学校生活や学習を月単位で見通し、場面毎に手立てが記載されています。また、月毎のねらいを段階的に設定し、滑らかな接続となるように配慮しています。

5月 マンスリープラン

【今月のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活を楽しみながら、時程に沿った生活ができるようにする。 ○運動会の練習に進んで参加することができるようにする。 	
【指導上の留意点】	
始業前	<ul style="list-style-type: none"> ○連休明けには、教室で児童を迎えあいさつを交わしたり声をかけたりしながら、一人一人の様子をしっかりと見る。 ○自分からあいさつができていない児童をほめるようにする。 ○連絡帳やプリントなどの提出の仕方を継続して指導する。
朝の活動 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを行い、落ち着いて人の話を聞く習慣づくりに努める。 ○朝の会の進行の仕方（あいさつ、歌、健康観察、スピーチなど）を指導する。 ○初めての運動会に期待感をもたせ、応援練習やダンスなどの練習に進んで参加できるようにする。
学習等の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○発表の仕方や話を聞かされている児童やグループ活動をしたれ合える場を設定する。 ○ひらがなの学習の進める。 ○生活科「学校たんけん」などを指導する。 ○4月の児童の様子をえる。 ○アサガオなどの植物工夫する。 ○すばやく集合したり
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割に合わせて教を続ける。 ○休み時間のうちにト遊んだときに使った ○休み時間の交友関係けんかなどトラブル
給食時間	<ul style="list-style-type: none"> ○給食当番の仕方や当 ○衛生面（うがいと手 ○アレルギーについて ○食事のマナーや後片 ○嫌いなものでも少し
清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ○掃除当番は計画的にどがどの児童にも分 ○清掃分担を確認する
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントなどの配布 ○週末に持ち帰るもの ○一人一人の表情に目 ○運動会の練習等で疲下校するよう声がけ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○運動着・紅白帽子・ ○連休明けなので、子に応じて家庭と連絡 ○授業中の立ち歩きがもに、入学時の資料

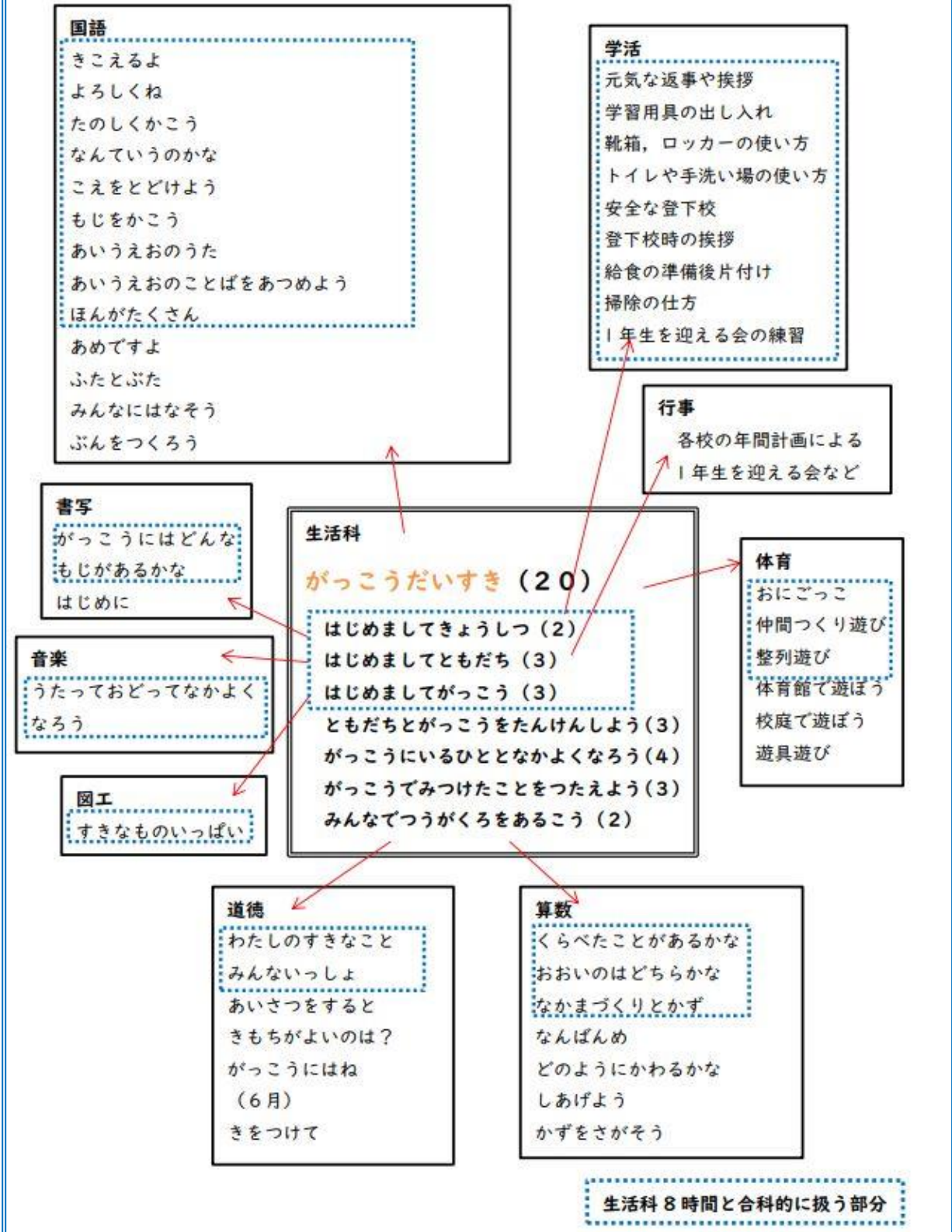
6・7月 マンスリープラン

【今月のねらい】	
<ul style="list-style-type: none"> ○学習ルールを身に付け、落ち着いて学習に取り組むことができるようにする。 ○交友関係や行動範囲を広げることができるようにする。 	
【指導上の留意点】	
始業前	○始業までの過ごし方、連絡帳等の提出、トイレや水道の使い方の指導を継続する。
朝の活動 朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○元氣よくあいさつができていない児童をほめ、その良さに気付かせる。 ○朝の会の進行の仕方を継続して指導する。適切な声の大きさで話すことができる児童をほめ、人前での話し方について知らせる。 ○話をしている人に体を向けて聞くことができるように声がける。 ○蒸し暑さ等でだるさを感じる児童に対して、健康状態をしっかりと把握する。（健康観察時の表情・基本的な生活習慣のチェック・早寝早起き朝ご飯の奨励）
学習等の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなや10までの数について読んだり書いたりできているか一人一人の実態把握に努める。 ○児童のノートと同じマス目の黒板を使うなど、児童がどこに何を書けばよいのか分かるようにしてノート指導を行う。 ○授業中の発表のルールを徹底して指導する。 ○鍵盤ハーモニカや絵の具セットの出し方や片付け方、整理の仕方を指導する。 ○水泳学習への興味を高めるとともに、水着の着替え方や水泳後の衣類の後始末の仕方を教室で練習させる。 ○順番やルールを守って活動している児童をほめ、進んで守ろうとする態度を育てる。 ○行動範囲の広がりとともにトラブルも増える時期なので、互いの話をよく聞くとともに、自分の気持ちをしっかりと相手に伝えることができるように指導する。また、攻撃的な口調で友達に接している児童には適切な言葉づかいができるように指導する。 ○友達といっしょに活動したり協力したりする楽しさが分かり、安心して学級の中で活動に取り組めるようにする。
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○外で遊ぶ機会が増え、けが増える時期でもあるので、けをした場合にどのように行動すればよいか指導し、実行できるようにさせる。けをした場合には教師間で情報を共有し、家庭にも連絡する。 ○雨の日の過ごし方について考えさせ、学校のルールを守れるように声がける。 ○トイレは休み時間のうちに行くように継続して声がける。
給食時間	○マナーを守って残さず食べられるように声がける。
清掃時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ほうきの使い方や机と椅子の運び方、床のふき方などをどの児童にも体験させ、教師も共に働きながら丁寧に指導する。 ○清掃分担を確認するとともに、清掃後のうがいと手洗いを確実にを行うように指導する。
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ○忘れ物をしないよう、次の日の学習予定や持ち物を確実に伝える。 ○通学路を通して下校しているかどうか確認し、飛び出したり危ない歩き方をしたりしないで下校するよう声がける。 ○「いかのおすし」の合言葉などを使って安全指導に努める。 ○週末に持ち帰るもの（白衣や上履き、運動着など）の確認をする。 ○毎日の学校生活が楽しいと感じているかチェックし、次の日の指導に生かす。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○本格的に学習が展開される時期であり、得意・不得意の感情が起こりやすくなるため保護者との情報交換を密にする。 ○音読に重点を置き、学校だけでなく家庭での練習にも進んで取り組めるよう指導方法を工夫する（がんばりカードなど）とともに保護者からの協力も得る。 ○宿題や提出物、学習用具などの忘れ物が目立つ児童の保護者と連絡をとり、忘れ物をしないよう家庭での声かけをお願いする。 ○気温・湿度が高い日は、こまめに水分補給をしたり、タオルで汗をふいたりできるような声掛けをする。

新たに作成した「単元デザイン」です。生活科を中心として各教科を合科的・関連的につなげたり、単元間を関連付けて学習を組み立てたりすることを指導者が視覚的につかみやすくデザインしました。体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ発展していくように意図をもって関連付けています。

生活科1年 単元デザイン① 4～5月

*体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ、発展していくように、意図をもって環境構成をしたり、単元間や教科間を関連付けたりする。

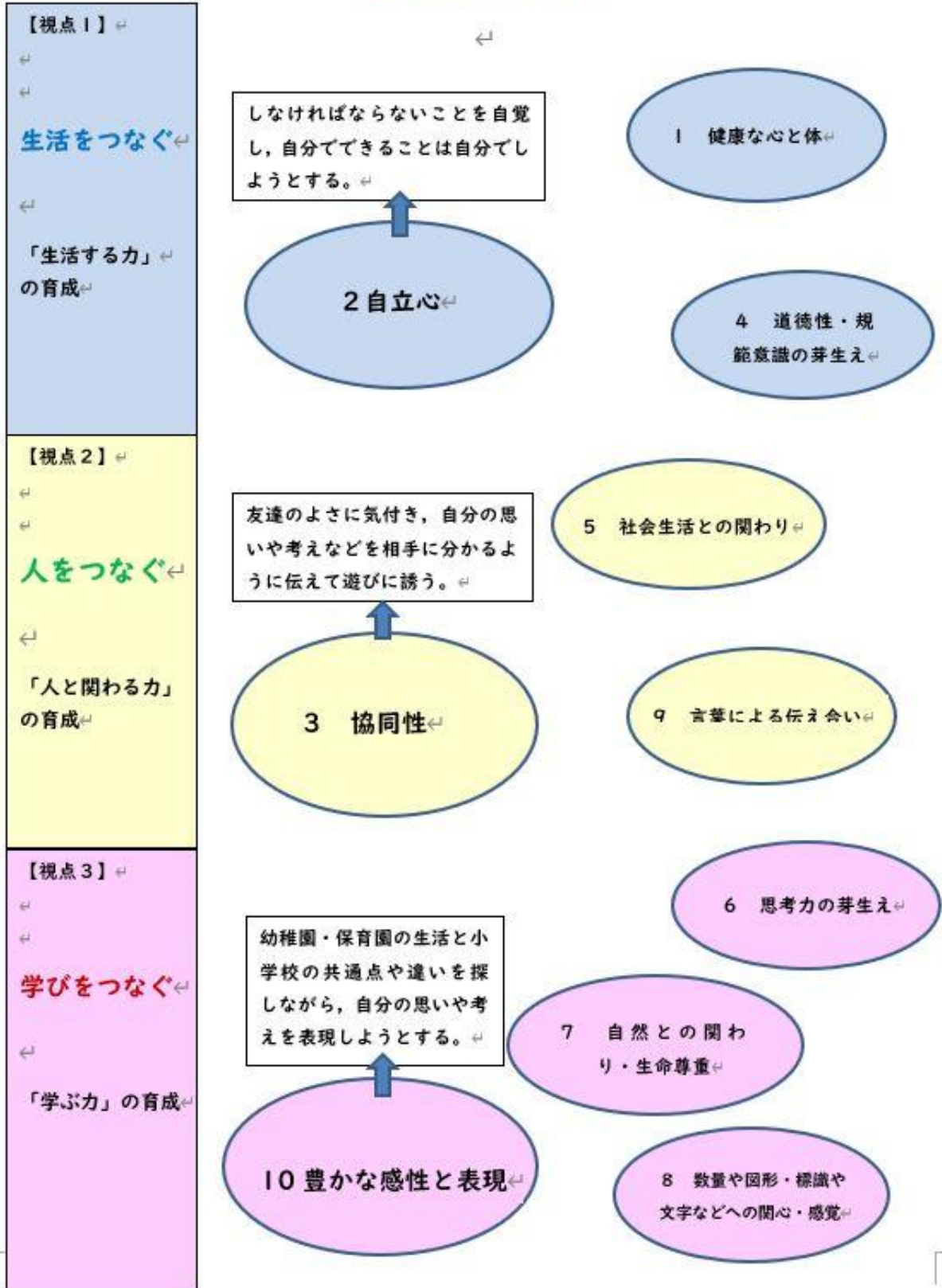


「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりは、小学校での育ちを就学前施設での育ちと関連付けて見取ることができるようにしています。

生活科 1年

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながり① 4～5月

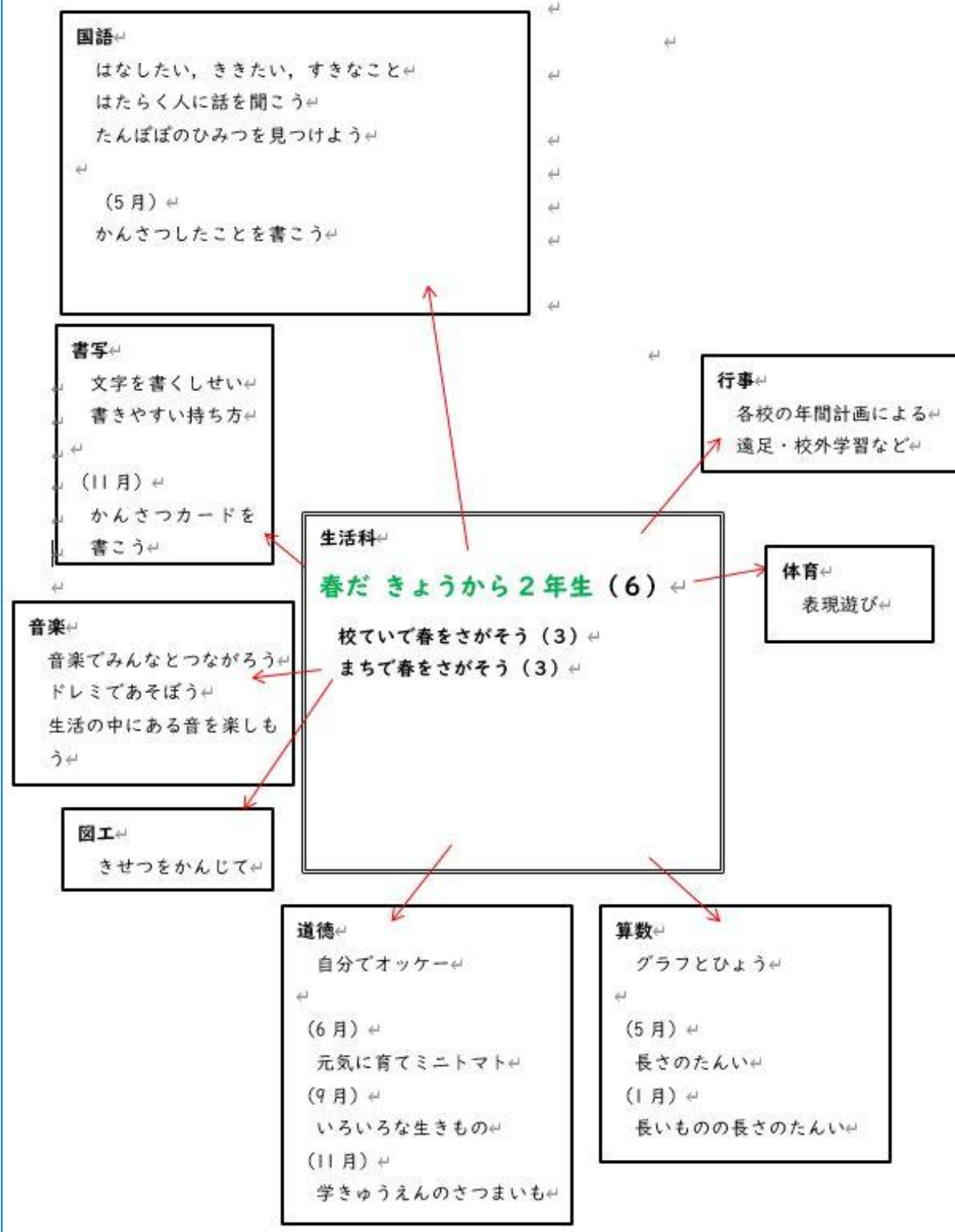
「がっこうだいすき」



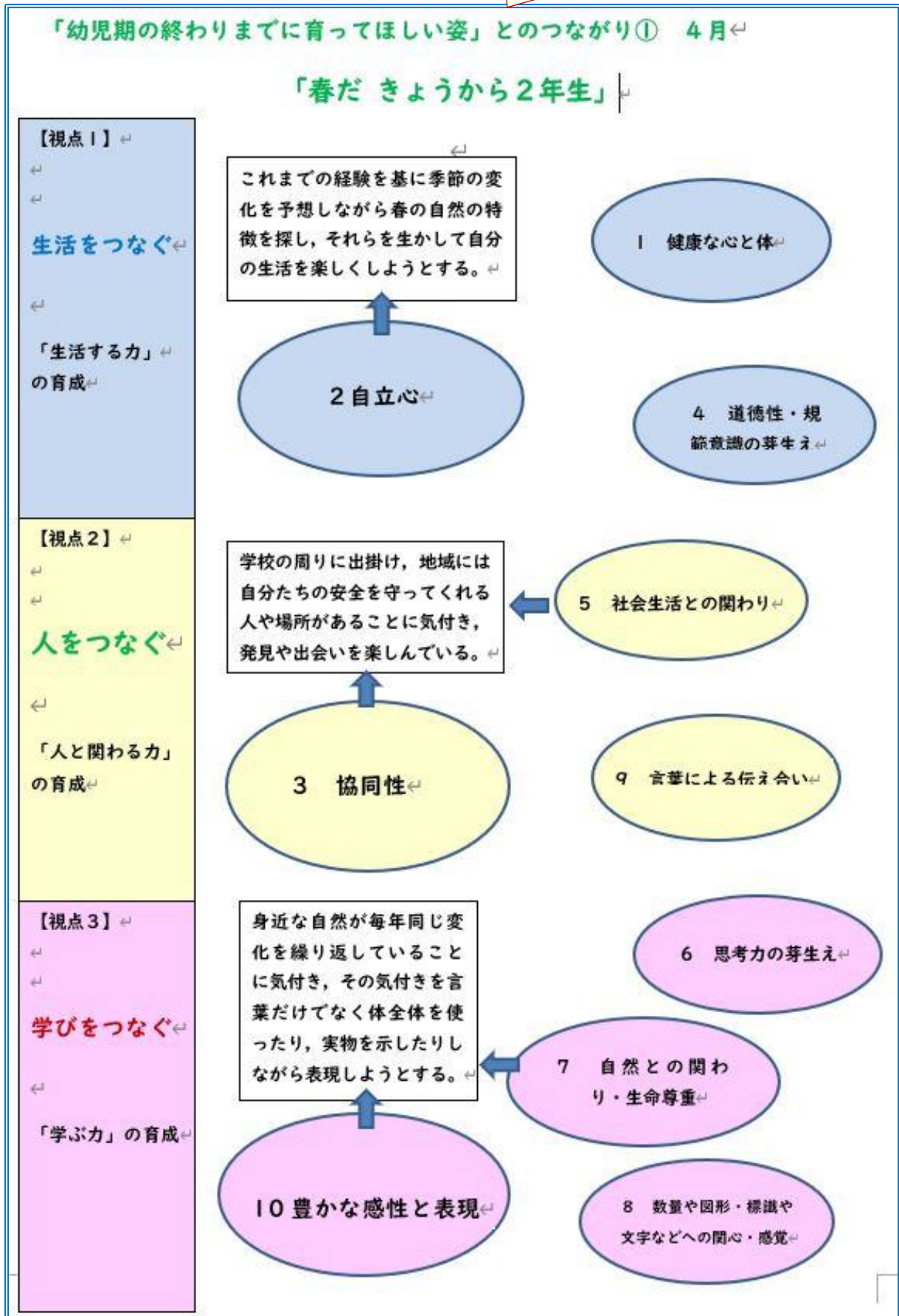
2年生の生活科についても「単元デザイン」を作成しました。これは1年生からの学びの連続性を意識した教育活動が展開できるようにしたものです。

生活科 2年 単元デザイン① 4月 ←

*体験から児童の思いが膨らみ、活動が生まれ、発展していくように、意図をもって環境構成をしたり、単元間や教科間を関連付けたりする。 ←



2年生に進級しても生活科の中に架け橋期カリキュラムのつなぐを意識して作成しています。



白石市教育委員会 小中連携の学びの連続性における全体構想

中学校までの学びの連続性を意識した取組を行うため、小学校3年生から中学校3年生までの全体構想をモデル中学校区で作成しました。
 「学びをつなぐ」「人をつなぐ」「生活をつなぐ」の3つの視点と関連させながら、小中学校での学びの連続性が一覧できるように作成しています。

福岡中学校区で育てたい子供の姿と学びの連続性							
小学校	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
学 学びをつなぐ	主体的・対話的で深い学び（個別最適な学び・協働的な学び）						
	・各教科において、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点を踏まえたテーマのもと、生徒自身が自らの学習を調整し、粘り強く取り組むことができる。また、ICT機器の特性を理解し、多様な教育コンテンツやHCEITを課題解決や思考、交流、表現等の場に応用することができる。 ・AIドリルを積極的に活用し、知識・技能の定着を図る。授業の導入では既習事項の確認、展開では演習問題や発展問題への挑戦、終末では適用問題として取り組む。また、授業だけでなく「学びタイム」でも活用する。						
人 人をつなぐ	協同から協働へ ～人との関りや協働の喜びを実感する～						
	・自分たちで立てた問いについて自分の考えをもち、多様な意見を受け入れ、尊重する姿勢で思いを伝え合うことを通して自らの考えを深めることができる。 ・自己の生活習慣を振り返り、問題点を見いだす。自律した自分に近づくために必要なことは何か。 ・セーフティを確立することで、よりよい人間関係を築くことができる。自分たちの問いを大切に、主体的に学ぶ力、探究心を高めることができる。互いに顔を見て話すことで、対話的に学ぶ力、コミュニケーション力、深く考える力を高めることができる。 ・自己を肯定的に捉え、他者を理解し尊重しようとする。 ・よりよい人間関係を築く力や、豊かな社会性を身に付ける。 ・人間関係の大切さを理解し、信頼し合える学級作りを目指す。 ・将来の職業と学習との関わりを理解し、主体的な学習しようとする。 ・学習や体験活動を通して、より良い生き方を求めることができる。 ・目標実現に向けて、最後まで粘り強くやりこむこととする。 ・目標達成に向けて、最後まで粘り強くやりこむこととする。地域の奉仕活動等に積極的に取り組み、自分たちの役割を果たす体験を通して、社会の一員としての自覚を持つ。						
生活 生活をつなぐ	自立から自律へ ～主体的に行動し、自分らしさを発揮する～						
	・「学び・生活のスタンダード」（学校生活・学習・生活の約束） ・生活リズムチェック/「ルルブル」ふれあいウィーク（健康的な生活習慣の確立） ・インターネット安全教室（外部講師による情報・ネットリテラシー教育） ・メディア（ゲーム・スマホ等）の使用を家族で話し合い、使う時間等を決め、コントロールする。 ・コントロールして生み出された時間を、家庭学習や家族とのふれあい等に利用する。						
生活習慣	・「学び・生活のスタンダード」（学校生活・学習・生活の約束） ・生活リズムチェック/「ルルブル」ふれあいウィーク（健康的な生活習慣の確立） ・インターネット安全教室（外部講師による情報・ネットリテラシー教育）						
小中連携	・福岡中学校区3校交流会（福岡中学校説明・授業見学・部活動体験）						
小中文化交流	福岡中学校吹奏楽部演奏披露（福岡小/深谷小：学習発表会）						